



地下鉄7号線延伸ニュース

第21号

2023.8 vol.21

さいたま市地下鉄7号線延伸認可申請事業化実現期成会

地下7号線延伸を実現しよう

「地下鉄7号線中間駅まちづくり方針」が策定されました

さいたま市では、浦和美園駅から岩槻駅までの地下鉄7号線延伸に伴う中間駅周辺地区のまちづくりを進める際の社会情勢の変化を踏まえ「あらたなまちの在り方」を示す「地下鉄7号線中間駅まちづくり方針」を策定しました。

今回策定された「地下鉄7号線中間駅まちづくり方針」は、各専門分野の有識者による「地下鉄7号線中間駅まちづくり方針有識者会議」や2023年1月に実施した地下鉄7号線延伸地域での説明会及びアンケート調査を踏まえ策定されたもので、今後、この方針に基づき、中間駅周辺のまちづくりの検討が進められます。



06 土地利用配置方針と基盤整備イメージ



まちづくりのテーマ

- 1 ニューノーマルに相応しい、多様性に対応した職住遊学を実現するまち**
まちづくりの方針
方針1 在宅ワークなどフレキシブルワークに対応したゆとりある住環境を創出します。
方針2 多様なライフスタイルに合わせたQOL(生活の質の高さ)の向上を目指します。
- 2 楽しむオープンスペースにより、人々がつながるまち**
まちづくりの方針
方針1 スマートな交通結節と居心地のよいオープンスペースによるウォーカブルを推進します。
方針2 公園などの緑豊かな自然を活かした滞在できる空間により、人々のつながりと地域活力を創出します。
- 3 自然と先端技術が融合した持続可能なまち**
まちづくりの方針
方針1 SDGs・ゼロカーボン実現に向けた建築・情報・エネルギーシステムを導入します。
方針2 産学公民の連携による、地域と人の健康維持など社会施策に取り組みます。
方針3 先端技術を活かした安全に暮らせるまちづくりを推進します。
- 4 地域内外のつながりにより成長し続けるまち**
まちづくりの方針
方針1 各種機能を共有することにより、さいたま市全域への波及を目指します。
方針2 浦和美園、岩槻との連携と地域特性を活かした持続成長を目指します。
方針3 中間駅周辺地域との連携を強化し、まちづくり方針の実現に向けた産学公民による地域マネジメントに取り組みます。

中間駅周辺地区は、鉄道沿線の浦和美園・岩槻地区と連携しながら、豊かな自然環境を活かし、多様なライフスタイルを尊重することで、人々が繋がり、ウェルビーイングを実現できるまちの形成が期待されます。

「地下鉄7号線中間駅まちづくり方針」の詳細は、こちらでご覧下さい
<https://www.city.saitama.jp/001/010/018/008/001/p095550.html>



地下鉄7号線延伸事業PR動画「未来へつなごうわたしたちのまち」を作成

地下鉄7号線延伸事業を広くさいたま市民にPRし、延伸実現に向け「オールさいたま」での更なる気運醸成を目的に作成しました。本動画の撮影にはドローンを使用し、日常とは違う角度から、延伸予定地域を見ることができます。

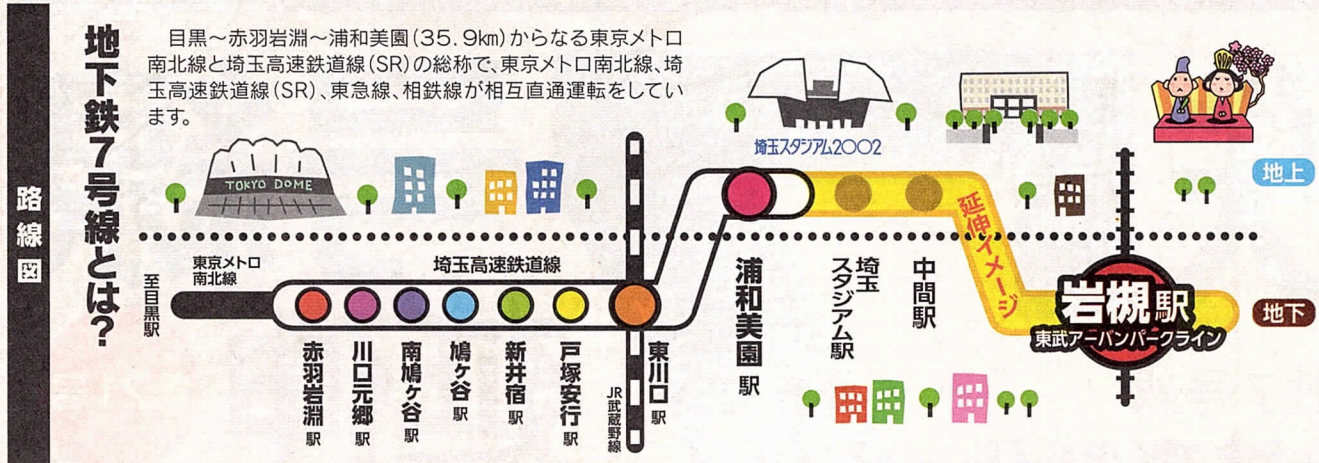
動画公開情報

本動画のロングバージョン(約7分)をYouTube(さいたま商工会議所チャンネル)にてご覧いただけます。

動画 URL はこちら
<https://youtu.be/lue-lbbCJJI>

その他、さいたま市の各区役所で30秒版の動画を公開しております。





詳細・お問合せは下記まで

期成会事務局

さいたま商工会議所 まちづくり支援課

〒330-9626

さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ソニックシティビル8階

TEL:048-641-0084 FAX:048-643-2720

さいたま市地下鉄7号線 延伸認可申請事業化実現期成会



一期成会とは

「地下鉄7号線の延伸」を「オールさいたま」で応援する組織です。

主に自治会、経済界、沿線大学、スポーツ界等の幅広いメンバーで構成されています。

一期成会が行うこと

1. 調査・検討事業を行ない、会事務局のさいたま商工会議所にご連絡ください。

いたします。
2. 埼玉高速鉄道(SR)の利用促進に向けた事業を行います。
3. 講演会やイベントなどで、延伸実現に向けたPR活動を行います。

一期成会に参加するには一趣旨に賛同される方であれば個人・企業問わず、どなたでもご加入頂けます。会費は、個人の方は年千円から、企業の方は年一万円からとなります。また、ご加入をいただいた個人の方のご家族、企業等の従業者の方は、賛助会員としてご加入(会費無料)できます。

詳細につきましては、期成会事務局のさいたま商工会議所にご連絡ください。

地下鉄7号線 延伸地域 『散策マップ』



地下7期成会では、浦和美園駅～岩槻駅間の地下鉄7号線延伸実現にむけての啓発活動の一環として、延伸線地域の自然や歴史等の魅力、期成会オリジナル情報を掲載した散策マップを作成しています。
本オリジナルマップは、延伸地域の魅力PRや円滑なコミュニケーションを図ることを目的に、ビクトグラム(絵文字)入りで、日本語と英語を併記し、かつて浦和美園駅～岩槻駅地域を運行していた旧武州鉄道の痕跡を辿りながら、見沼田んぼと元荒川の自然あふれる水辺と歴史を満喫頂けるコースをご紹介します。(ご希望の方は、期成会事務局にご連絡下さい)

鉄道今昔物語 第19話 埼玉高速鉄道の沿線から 乗り換え無しで新横浜へ!!



みなさま、こんにちは。ようやくコロナ禍も第5類に移行し、マスクをあまり気にせず、外出できるようになりました。しかし、そこはケースバイケースで、バッグの中には常にマスクを忍ばせ、いつでも大人の対応で、引き出せるようにしておくマナーも必要ですね。

さてご存知の通り今春、相模鉄道と東急電鉄の新横浜線が開業し、私たち埼玉高速鉄道の沿線からも、新横浜や湘南台・海老名など、神奈川の県央方面に乗り換えなしで行けるようになりました。

私も開業当初、新横浜駅などを取材してきましたが、新幹線への乗り換えが十分に考えられており、スムーズに乗り換えられるようになっていました。

ところで、埼玉高速鉄道の各駅から東海道新幹線「のぞみ号」への乗り換えを考えた場合(在来線から新幹線への乗り換えを10分と仮定)、当然、東京駅に出ることが一番早い経路になります。

しかし、王子などで乗り換えが必要ですから、東京駅での乗り換えも考えると、2回乗り換えが発生します。品川もしかりです。2回の乗り換えがあることに加えて、品川の場合は、東京駅で乗り換えられる「のぞみ号」の一本あとの列車になってしまいます。

そこで、埼玉高速鉄道からの列車に乗り続け、東急線経由で、新横浜に出た場合を考えますと、品川乗り換えの「のぞみ号」と同じ列車に乗り換えられ、しかも途中の乗り換えがありません。日中でも1時間に1本直通列車があるので、大きな荷物があるときなどは、乗り換えなしは非常に魅力的です。

新横浜駅でもスムーズに東海道新幹線に乗り換えられますので、十分に選択の余地はあります。そして、ラッシュ時間でなければ、恐らくは座ったままで、新横浜まで行けるはずです。埼玉高速鉄道・各駅から、東海道新幹線をご利用の際は、是非ご一考いただければと思います。

このように、鉄道は他の路線とネットワークを組むことで、利便性が向上し、社会に対して新たな市場や、雇用さえも生み出します。

そういった観点からも、埼玉高速鉄道の一歩も早い延伸を、願わずにはいられません。そして、延伸成功の秘訣は、皆さまおひとりお一人の声が、とても大切です。ぜひ皆さまのお力添えを、よろしくお願いいたします。



著者紹介



鉄道ジャーナリスト
ワタナベ シエ
渡部 史絵氏

2006年から活動。月刊誌『鉄道ファン』や東洋経済オンラインの連載をはじめ、書籍や新聞・テレビやラジオ等で鉄道の有用性や魅力を発信。

著書は19作を数え『鉄道なんでも日本初!!』(天夢人)、『超! 探求読本 誰も書かなかった東武鉄道』(河出書房新社)、『地下鉄の駅はものすごい』(平凡社)、『電車の進歩細見』(交通新聞社)、『譲渡された鉄道車両』(東京堂出版)ほか多数。
国土交通省・行政や大学、鉄道事業者にて講演活動等も多く行う。
新著に、『鉄道写真 ここで撮ってもいいですか』(オーム社)7月27日発行!

●アメブロ公式ブログ
<http://ameblo.jp/shie-rail/>
●twitter公式
<http://twitter.com/shierail>

地下鉄7号線延伸事業化実現特別講演会を開催

地下鉄7号線延伸は、埼玉県、さいたま市、川口市で構成される「地下鉄7号線延伸推進自治体連携会議」において速達性向上計画の素案について議論が進められているほか、「中間駅まちづくり方針」が策定されるなど、地下鉄7号線延伸実現にむけた動きが加速しています。期成会では、取組の現状及び延伸実現によりもたらされる効果等について直接情報を得る機会として山本悟司埼玉県副知事、小川博之さいたま市副市長を講師にお招きして、特別講演会を開催いたしました。

と き : 令和5年3月23日(木) 午後3時10分
場 所 : 岩槻駅東口コミュニティセンター 4階多目的ルームA
※当日は、ZOOMによるオンライン配信を同時に実施
出席者 : 90名(オンライン参加含む)

講演会要旨

(1) 埼玉県の地下鉄7号線延伸に向けた取組について

講 師 : 埼玉県副知事 山本悟司 氏

埼玉県は、優れた広域的な交通ネットワークを有しており、強みを更に向上させていくことで、人とモノの行き来を一層活性化させることができる。鉄道網では、埼玉県5か年計画の中に5つの路線を明示し、県内延伸に向けた取組を進めている。その中でも地下鉄7号線は、最も取組が進んでいる路線となっている。

延伸効果はさいたま市内に留まらず、県内交通ネットワークの強化が図られ、速達性・利便性の向上、近隣路線の混雑緩和が考えられる。例えば県内各所から埼玉スタジアム2002への移動時間が短縮するほか、災害時等の代替路線機能としての効果も見込まれる。



講演中の山本副知事

さらに、今後観光振興へも力を入れていくことが重要。延伸後の経済効果はもちろん、現在の段階においても延伸に向けての追い風となる。観光資源の整備やプロモーションなどに地域が一体となって盛り上げていくことが重要である。

県では、鉄道事業者への事業実施要請に向けさいたま市と共同で調査を実施している。令和5年度予算においても、建設費の精査やポストコロナの鉄道需要の見通しを踏まえた需要予測などを行うための調査費を計上した。

引き続きさいたま市とスクラムを組みながら全力で取り組んでいく。

(2) 地下鉄7号線延伸事業と中間駅のまちづくりの取組について

講 師 : さいたま市副市長 小川博之 氏

さいたま市では、延伸の意義・必要性について、「東京圏の鉄道ネットワークの強化」により、埼玉県内と東京都心部との速達性が向上するものと考えている。

地下鉄7号線の南側では、品川駅までの延伸が許可されたことで、今後リニア中央新幹線への乗り換え、羽田空港へのアクセス等の利便性が向上し、本市の観光や経済に、大きな影響を与えるものと期待される。

また、東日本大震災時にはJR線等が運休する中で埼玉高速鉄道線は即日復旧した実績があり、災害時等の代替路線としての効果も期待できる。

現在の取組としては、令和5年度中の鉄道事業者への事業実施要請に向けて、埼玉県、川口市、さいたま市を構成員とする「地下鉄7号線延伸推進自治体連携会議」において、速達性向上事業に関する計画の素案作成や、自治体の費用負担割合等について、協議を進めている。

地下鉄7号線延伸線中間駅のまちづくりについては、有識者会議の意見を踏まえ作成した「中間駅まちづくり方針案」を用いて、令和5年1月20日から28日まで延伸線沿線エリアで説明会を開催した。アンケートでは、鉄道延伸について、「交通ネットワークの充実」を期待する声が多く寄せられた。

地下鉄7号線の延伸は長年の地元の悲願でもあり、意義のある事業と認識している。これからもさいたま市と埼玉県とが連携を密に、地下鉄7号線延伸事業を進めていく。



講演中の小川副市長